

◆障害学生の修学支援・II◆

第六回 障害学生のPR

筑波技術大学教授 石田久之

前号では、障害学生や周囲の学生、また受験生への広報について説明しました。広報は更に、教職員や地域の団体などにも行う必要があります。特に教員には、授業という場で障害学生に頻繁に接するわけですから、支援を必要とする学生が授業に参加していること、必要な支援とはどのような内容であるかなどについて、十分な情報を提供し、授業方法の改善に協力してもらおう必要があります。

パソコン利用のPR

さて、今回は逆の、障害学生からのPRというものを考えてみたいと思います。

年度始め、大学内の掲示板に、キャンパス外、つまり、アパートなど主に生活の場での介助をお願いしたいというチラシを見ることがあります。どのような人間で、何ができ、何ができない、そして何をしたいか、というPRです。多くの場合、大学の修学支援はキャンパス内に限ら

れるので、学外での支援は学生自身が探さなければなりません。そのような時、学内に支援関係専用の掲示板や電子掲示板が設置されていて、そこに掲示、あるいは投稿すれば、見ている誰かがすぐにアクセスしてくる、ということにならないかと考えています。

障害学生の中には、パソコンや携帯電話などを利用して、自己を上手にPRできる人もいますので、そのような場合は、とても効果的です。勿論、パソコンを使って、ユニークなチラシを作る障害学生もいます。余談ですが、私は、就職活動でもパソコンを用いた自己PRを勧めています。パソコンの入ったデイベックを背負い、白杖をつけて出かけていく学生の姿を研究室からよく見ます。

三者懇談会

PRをもう少し拡大解釈して、意見を述べる場というのはどうでしょう。こんなサポートを始めてもらえないか、今あるサービスをこのように変えてもらえないか、など、いろいろな意見、更には不満もあると思います。これらを事務窓口で要望することはできません。しかし、ゆっくり、じっくりというわけにはいかならないのでしょうか。他の学生もいます。担当者も他の仕事を抱えています。

個人的な愚痴ではなく、サービスに対する要望を、きち

んとと言える場はあるのでしょうか。よく伺うのは、ノートテイカーと障害学生、そして支援担当者の三者による懇談会です。ここで、日頃のテイカーの技術力が粗上にはほるそうです。もう少し速く書いて欲しい、読みやすいように要約して欲しい、などです。他方、テイカーから利用者への注文もあります。授業を欠席するなら連絡して欲しい。授業中に寝ないで欲しい。

担当者の仕事も、テイカーを配置すれば終わり、ということではありません。両者の間を取り持ち、ある時は指導的に、ある時は受容的に対処しながら、支援を円滑に進めなければなりません。そのためにも三者懇談会のような場は必要です。多い大学では、毎月一回は開いているようですが、少なくとも一学期に一度は必要だと思っています。

さて、前々号で「発達」障害学生のカミングアウトについて書きました。自分の状況を他の学生に知ってもらい協力を得るのですが、これも一種のPRだと思えます。教室には障害学生の声（PR）がいたるところにあります。が、こんな視覚障害学生のお話を紹介しましょう。

明るさと暗さ

一般に視覚障害学生への対応というと、まずは部屋を明



るくしたり、席を窓側にしたりします。勿論、明るい所のほうが見やすいからです。しかし、そういう学生ばかりではありません。明るすぎると見にくいという学生もいます。白い用紙に黒く印字した資料、パソコンの白い背景に黒く表示された文字、などが、とても目に負担だという学生もいるのです。そういう学生は、例えば、レポートを発表する時、「部屋の電気を消してください」と言います。真っ暗にするわけではありませんが、これにより、紙面の反射（明るさ）を極力抑えるのです。

帽子着用

更に、授業中、ひさしのついた帽子をかぶっている学生もいます。「今時」の学生の中には、授業中、平気で携帯を鳴らしたり、飲食したりするものもありますが、それでも帽子をかぶったままという学生はいません。そこで、理由を聞いてみると、やはり、天井からの光が眩しいので、帽子のひさしで光を防いでいるということなんです。本当は、はじめに学生のほうから、帽子をかぶっている理由を聞かせて欲しいのですが、やはりなんとなく言えない、ということだと思えます。

広くみんなに知らせ、理解と協力を得られる環境は、簡単に作れません。